

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0894200021		
法人名	株式会社 ほーむけあしやま		
事業所名	グループホーム 樂樂		
所在地	茨城県結城郡八千代町菅谷1143-1		
自己評価作成日	令和 5年 5月 1日	評価結果市町村受理日	令和5年7月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JkyosyoCd=0894200021-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和5年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家庭におられた時と同じように「普通の生活」を大切にしています。皆様といっしょに生活しながら、「できる事」を大切にしています。「ゆっくり・たのしく・いっしょに・その人らしさを大切に」が会社の理念であり、私たち職員の行動指針でもあります。また、地域密着型の施設であり、地域の理解をさらに深め、地域福祉の拠点とさせて頂ける努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の中に溶け込んでいる。入居者、地域の人たち、お互いに知り尽くしているため交流しやすい。町全体が家族の様で小さい町だからこそ人のつながりが濃い。八千代特産の白菜が段ボールで届くこともある。食へのこだわり。特にコメに関しては、精米、炊き方など美味しく食べるこのこだわりがある。研修がしっかりしている。年間計画の中に、身体拘束、看取り、衛生管理などが網羅されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けることを理念とし実践している。事業所会議等で話し合い理念を共有し実践につなげている。	職員と相談して毎月月間目標を立てて取り組んでいる。利用者一人ひとりに寄り添った支援を心掛けている。少人数なので密な関わりができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお花見・夏祭りに毎年参加をし交流を深めている。日常的にも、近隣の人と挨拶を交わしたり話をしてしている。コロナウィルスの為イベントに参加できなかった。	長きに渡り築かれてきた地域との繋がりを大切に地域の一員として防災対策に取り組んでいる。地域の人から野菜(白菜)を箱ごともらうことがある。コロナ禍前は地域のイベントに参加したり、事業所のイベントに招待していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内も見学して頂き、認知症の理解や支援の方法を実感して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練も兼ねて行い防災の強化に努める。また、行事やサービス内容を報告し、検討事項について出席者の意見を参考にしてサービスの向上に努めている。	行政からの指導で会議は行っていないが、事業所会議の報告書を町に提出するとともに、家族等には広報誌を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者とは、日頃から連絡を密にとり、事業所の取り組みを積極的に伝え、適時にアドバイスを受けている。	代表と管理者は介護保険の更新時に窓口を訪問する他、包括支援センターや社会福祉課等事業所内での困りごとを相談する等、信頼関係が構築されている。また、町から利用者の紹介もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開き身体拘束のデメリットを理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束排除のための委員会を設置している。職員アンケートで強化したい点や日頃気になっている点を中心にテーマを決めて勉強会を行っている。法人の委員会での内容を各事業所にて研修等行い共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	玄関にポスターの掲示を行い虐待の防止に努めている。また、事業所会議等で意見交換をし理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所会議での勉強会、外部研修等で理解を深める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書の内容・重要事項説明書を丁寧に説明し、改定等の際にも十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、利用者・ご家族・職員とで話す機会をつくり意見を伺っている。運営推進会議への参加も呼び掛け意見・要望をだしている。	面会時に意見等を聞く機会を設けている。コロナ禍前は年1回家族会を開催していた。家族等からの苦情は管理者が聞き、代表へ報告したのち職員で話し合い、家族等へ説明する手順になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一の事業所会議や、業務時の申し送りの際に意見・要望をだしている。また、代表者は個人面談を実施し意見等を反映させている。	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、職員会議や面談時に意見を聞いている。職員にアンケートを取り、業務改善や親睦会の内容、退職金制度の確立などを行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス、または、職員個々の状況を管理者を通じて把握し、各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、段階に応じて、新人・中堅・管理者研修がある。また、外部研修も必要に応じて適時出席しスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の交流会や勉強会への参加、利用者の受け入れなどでの交流を持ち、お互いに協力できる体制づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心身の状態や思いに向き合い、不安要因に互いに向き合いながら、利用者から受け入れられるような信頼関係を築けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の困っている事、不安な事、要望等を相手の身になって耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや状況を確認し、まず必要とされる支援を見極め、他のサービス利用も含め柔軟な対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する、される側という意識を持たず、いっしょに行いながら、その人らしく生活できるように場所作りや声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添い日々の暮らしの出来事や、気づき・変化の状況を、2ヶ月に1回のお手紙と面会時に伝え、家族と同じような思いで支援していることを伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族会・面会など、家族・知人との触れ合いを大切にし、馴染みの人と会ったりできるよう支援している。	これまで通っていた美容室の人が訪問してくれたり、薬剤師も馴染みの人で継続して対応してくれている。電話や手紙の取次ぎ支援などを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時の席やレクリエーションでの位置などを考慮し、1日の流れの中で協同の意識や役割を持ちながら活動して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方にも、継続して相談等来て頂けるよう声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言語・表情等から思い・希望・意向の把握に努めている。意思疎通の難しい方には、ご家族と相談し本人本位に検討している。	入所時の家族からの話やフェイスシート、日々の関わりから様子や表情をみて把握している。食器拭きや洗濯物畳みなどの生活リハビリを行いやりがいにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を確認し、また、本人の話しや、家族・知人等の面会時に可能な限り話しを聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いっしょに生活する中で、心身状態、有する力等を把握し、カンファレンスで意見を出し合い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく生活ができるように、本人や家族の要望に耳を傾け、医療関係者の意見も含めて、ケアカンファレンスで話し合い現状に即した介護計画を作成している。	介護計画はセンター方式を導入し、介護認定期間に連動し期間を設定している。アセスメントチェックシートをつけ、モニタリングを2か月ごとに行っており、更新時にケアカンファレンスでニーズとケアのあり方について話し合いをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫をケース記録に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、通院・オレンジカフェへの参加等柔軟に対応するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で地域資源を把握するように心掛け、地域の方々や近隣施設への働きかけやボランティアへの協力もお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療が2週間に1回あり状態を説明し、指示を受けている。また、適時に家族と連絡を取りながら適切な医療を受けている。	協力医療機関の医師による訪問診療が月2回と訪問看護が週1回(24時間体制)あり、訪問看護は個人記録にその都度状況を赤ペンで記入してくれている。定期的に来所する元職員の歯科衛生士が必要と感じた時に歯科医が往診してくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に、職員の情報や気づきを報告している。また、ケース記録に利用者の状況・注意点を記録して頂き、職員も確認して適切なケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に基本情報を提供し、適時に見舞いに行き、ご家族や医療関係者と情報交換をし、退院後の対応等を検討し、できるだけ早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応については、契約時に話し合い看取りの同意書を頂いている。その上で、利用者の状況に応じ、医師・看護師と連携を図りながら、家族と連絡を密にして取り組んでいる。	「重度化した場合の対応に係る指針」にて入居時に説明し同意を得ている。段階的に医師から家族に説明し、個人記録に家族の意向を残している。年1回研修を行うとともに看取り後の振り返りを行い、職員のグリーフケアにも配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、マニュアルを整備し、事業所会議または適時に周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は、昼夜・いろいろな災害を想定し、近隣の方にも参加して頂き定期的に行っている。また、社内で防災委員会を設置し、防災の知識・技能向上に努めている。	夜間想定を含む避難訓練を行っている。雷の被雷が多い為、避雷針を設置した。法人の防災委員会があり、BCPを策定している。利用者の行動を個別に記録してあるが、反省や課題の記録を残すまでに至っていない	避難訓練について、実施後の反省点や課題など次回に向けて、記録として残しておくのが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の意思・人格を尊重し、一人ひとりに合った対応を心掛けている。本人の自己決定を大切に、適切な言葉掛けや対応をしている。	管理者と職員は日頃から利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけ等に配慮している。個人情報や肖像権に関して同意書がある。人権尊重や守秘義務について年1回研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛けをし、些細な言葉・表情等から思いや希望を汲み取れるようにしている。本人の自己決定が出来る環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意識して職員側のペースにならないように、利用者の気持ち、生活のリズム・ペースを優先して本人の気持ちになって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の生活習慣・好みを大切にしている。行事の際には、着付け・化粧をしたりとおしゃれを楽しんで頂けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と相談しメニューを決めたり、準備や片づけなど一緒に行っている。利用者と職員が同じテーブルでお話をしながら、楽しんで食事が出来るようにしている。	献立は利用者と相談して決め、季節の野菜を取り合わせて立てている。代表が法人分まとめて購入することでコスト削減を図っている。また、八郷のコシヒカリ玄米を購入し毎月精米したものをガス窯で炊いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立や食事量・水分量は毎日チェックしている。水分摂取には、こまめに声掛けし脱水の防止をしている。また、管理栄養士に献立のアドバイスを受け栄養バランスの改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけをし状況に応じて介助している。専任の歯科衛生士により、歯石除去等口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行うことにより、排泄パターンを把握し、中重度の方でもトイレでの排泄が出来るように支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けして誘導しできるだけトイレでの排泄を支援している。食事や水分摂取、乳製品を摂るなど工夫して便秘解消に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防には、食物繊維や乳製品や水分の摂取に注意している。散歩や体操する機会をつくって、自然排便が出来るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿った時間に入浴できるようにしている。職員の都合では無く、一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。	入浴は基本週3回としているが、利用者の希望に沿っていつでも入れるよう支援している。使用するシャンプーや石鹸などは、それぞれの好みに合わせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活習慣に応じて休息したり、眠れるように支援している。夜間の眠りの浅い方には、日中の過ごし方の見直し等している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し薬の目的や副作用、用法や用量についての理解に努めている。症状の変化があった際には、医師へ報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの張り合いや喜びを見つけて、できる事、役割が持てるように支援している。また、その人らしく生活して頂き、外出等気分転換にも留意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が行きたいと思う、普段は行けない場所でも、家族の協力を得て実現できるよう支援している。	コロナ禍前は幼稚園の鼓笛隊の予行演習の見学や買い物、散歩などに出かけていた。現在は近くの公園に花見に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があった時には、機会をつくり一緒に買い物に行っている。一緒にレジに並びお支払もして頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用したい方には、自由に使用して頂いている。手紙のやりとりもできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般的な家庭にあるものは整えている。季節の花などを飾り、生活感や季節感を採り入れて居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	玄関はスロープが脇に設置されているが、あえてバリアフリーではなく段差も使用して出入りができる。食堂兼居間は掃き出しの窓が多く明るい雰囲気です。畳の部屋をフローリングに改築し壁を壊したことで広々過ごすことができ開放的な空間になっている。畑では計画的に野菜が栽培されており、利用者が除草作業の手伝いをして頂けることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭先には、ベンチを置き利用者がくつろげるようにしてある。居間の横の和室には、ソファがあり、冬には、こたつも用意し自由に使われている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が家で使用していた馴染みの家具等を持ってきて頂いたり、テレビを楽しまれたりと居心地よく過ごせるよう心掛けています。	居室入口に名前を掲示し居室を間違えることを防いでいる。また、畳とフローリングの居室があり、布団での生活も選ぶことができる。掃き出し窓から出られるベランダがあり、外の空気を感じられる。壁に飾ってある家族写真は家族等とのつながりを感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりやトイレ、廊下等の居住環境が適しているかをチェックして、安全の確保と自立した生活ができるように支援している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム 樂樂

作成日 令和 5年 7月 31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練の実施後の反省点や課題等を、次回にむけて、記録に残していない	前回より避難訓練がより良い訓練にする	記録に残し、次回以降の実施に改善した訓練を行う	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。